

# 福島県 ホープツーリズム

## 人材育成研修向けガイドブック

(企業・行政機関・団体等)

Fukushima Hope Tourism  
Corporate Training

福島で感じる希望<sup>ホープ</sup>。

それは明日の成長の原動力。

震災・原子力災害の

被災地域をフィールドとした

新しい研修プログラム——

# ホープツーリズムとは

世界で類を見ない「複合災害(地震・津波・原子力災害)」を経験した唯一の場所、福島県。  
ホープツーリズムは、複合災害の教訓等から、持続可能な社会・地域づくりを探究・創造する  
福島オンリーワンの新しいスタディツアーです。

## 3つの特徴「見る」「聞く」「考える」



### 施設見学、フィールドワークから ありのままの姿を体感

持続可能な未来を担う新しい取組。  
長年の避難……。報道だけでは伝わらない“光と影”。その光景が、福島の  
「今」です。

### 復興に向け果敢に チャレンジする人々との”対話”

前へ進もうと果敢にチャレンジする  
人々が、福島にはたくさんいます。  
そうした人々との対話から、多くの刺  
激や気づきを得ることができます。

### 震災・原子力災害の教訓を 未来(社会・地域・日常・自分自身)にどう活かすか

震災や原子力災害から発生した問題は、「福島だけ  
の問題」ではなく「日本社会や地域が抱え、解決すべき  
問題」という視点に立ち、自分たちがどのような  
未来を創ってきたいかなどについて議論します。

## なぜ「福島」で「人材育成研修」なのか

福島は社会問題の先進地であり、未曾有の大災害の中で、その解決に尽力している  
企業が多数存在します。そのノウハウや戦略は、今後の日本企業が持続的に存続し続ける  
新しいモデルといえます。「地域創生」と「企業と人の成長」はつながっており、創生に向かう  
福島の企業からは、繁栄や成長のヒントが得られると言えます。

### ⚠️ リスクマネジメント

震災と原子力災害で発生した  
様々な問題を知り、企業・組織とし  
ての備えを考えます。

### 💡 問題解決・課題解決

復興や地方創世に尽力する福島県  
内の経営者の話を聞くことで、企業  
や組織の社会的役割に気づきます。

### 👥 コミュニケーション

まちづくりの合意形成のプロセス  
は、企業・組織に必要なコミュニ  
ケーション能力醸成につながります。

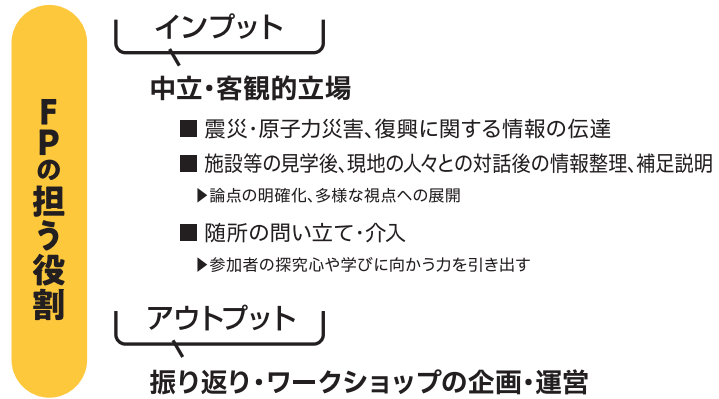
## 実施団体例

- 一般社団法人日本経済団体連合会 加盟企業
- 株式会社本田技術研究所 ほかグループ企業
- 読売新聞東京本社
- 国家公務員内定者
- ANAホールディングス株式会社 ほかグループ企業
- 株式会社デンソー
- 一般社団法人ニッポン観光連盟
- 福島県庁職員研修課

## Point\_1

# フィールドパートナー(FP)が多角的な視点でアテンド

ホープツーリズムの研修には、アテンドやファシリテートを担当する「フィールドパートナー」が  
同行します。1日ごとの振り返り(リフレクション)や、最終日のワークショップなどを通し、中立・  
客観的な立場で参加者の成長を促します。



## Point\_2

# 事前学習からアウトプットまで効果的に「考える」仕組み

### オンライン事前学習

ツアーに入る前に、震災・原子  
力災害の基礎知識(福島県の概  
要、被害状況、復旧状況の推移  
等)を解説。

### 1日の振り返り(リフレクション)

毎日、振り返り(リフレクシ  
ョン)を行い、疑問や気づきなど  
を共有することで情報を整理。

### アウトプット

テーマに合わせたケーススタディ  
やワークショップで、ひとりひとりが  
社会を担う当事者としての意識  
を醸成し、成長を促します。

## Goal --> 未来志向で持続的な 企業運営視点と社会人意識を醸成

未曾有の大災害に直面した福島では、人材や技能の奪い合いではな  
く、補い合うことで前進する、連携型の運営構造が成り立っています。  
ホープツーリズムの人材育成研修は、持続可能な企業運営のヒントを  
みつけ、より良い社会を実現する人材の育成を目指します。



## 参加者の声

国家公務員 内定者

福島は日本の課題の縮図。福島  
の課題を解決することは、復興のた  
めのみならず、普遍的な社会課題  
を克服する可能性を秘めているこ  
とに気づいた。

大手自動車部品メーカー 社員

現実を直視して、そこからの解決  
策を真剣に考えて解を見出す。その  
姿勢が福島にはある。日本の企業  
には、やると決めたらやり遂げる力  
があると実感した。



# 見学施設 福島県にしかない、福島県だからこそ始まった取り組みがあります。

ホープツーリズム



出典：東京電力ホールディングス



提供：環境省



## 東京電力 福島第一原子力発電所

### 事故の全容と廃炉の進捗を現場で学ぶ

事故を起こした発電所構内を専用のバスで見学。また東京電力の社員から、事故の全容と廃炉の進捗の説明を聞くことで、理解を深めます。(東京電力「廃炉資料館」のガイド付き見学も可能。)

発電所構内では、原子炉建屋(1~4号機)や処理水タンクなどを実際に見学。前例のない事故を収束させるべく、最先端技術で挑む廃炉の現場で、東京電力や関連企業の取組を知ることができます。

## 中間貯蔵施設

### 原子力災害の被害の大きさを実感する場所

除染で取り除いた土壌等を最終処分までの間、安全かつ集中的に貯蔵するための施設。構内見学では約16 km<sup>2</sup>の広大なフィールドの一部をバスで周回し、取組の全容を知ることができます。

構内には東京電力福島第一原子力発電所を遠望できるポイントや、震災後からそのままの建物なども残っており、立地の経緯や住民との合意形成などの運用プロセスを、施設関係者の説明付きで知ることができます。

## 東日本大震災・原子力災害伝承館

### 展示と生の声で知る震災の全体像

複合災害の記録やそこから得られた教訓、そして復興の歩みを国内外に伝え、将来へ引き継いでいくためにつくられた施設。館内の映像や展示などの豊富な資料から、震災・原子力災害直後から現在までの経過・復興の歩みの全体像を学ぶことができます。

## 【震災遺構】浪江町立請戸小学校

### 爪痕の中に見いだす希望の光

校舎は津波により半壊しましたが、迅速な判断と避難により奇跡的に犠牲者は出ませんでした。県内初となる震災遺構として、震災の脅威や教訓とともに、防災意識を高めることを目的として、被災当時の姿を保存しています。



## 福島ロボットテストフィールド

### 未来をつくる研究・実証拠点

浜通りの産業回復のための国家プロジェクト「福島イノベーション・コースト構想」により、南相馬市に整備された、フィールドロボットの一大開発実証拠点。



## ネクサスファームおおくま

### ITC活用で農業復興

GLOBALG.A.P.の認証も取得し、大熊町で農業再生に挑戦。栽培面積2.2haの太陽光利用型植物工場ではいちごの栽培・販売をしています。



## ワンダーファーム

### 未来をつくる開発拠点

農作業を体験しながら、震災後の活動や挑戦について対話。リーダーシップやチームワーク、ソーシャルマインドを養い、チームビルディングとしても有効です。

## 「宿泊施設で復興の軌跡を体感」



### 復興の象徴 アスリートたちの聖地

## Jヴィレッジ

サッカー日本代表の合宿も行われた、日本初のサッカー・ナショナルトレーニングセンター。原発から20kmの境目に位置し、震災直後は原子力災害の対応拠点として使用されていました。2019年4月に全面再開を果たした、復興のシンボルの存在です。

## ご当地グルメや特産名産を満喫!



### 「常磐もの」

福島県沖の潮目の海で水揚げされる魚介類は「常磐もの」と呼ばれ、高い評価を受けてきました。

### 「なみえ焼そば」

極太麺に特製ソースがよく絡むソウルフード。今では福島県を代表するご当地グルメのひとつです。

### 「凍み餅」

冷え込む福島県の中山間地ならではの伝統保存食。ごんぼっ葉(オヤマボクチ)の風味がくせになる逸品。

## 復興に向け果敢にチャレンジする人々



(一社) ふくしまリアリ

やまぐち ゆうじ  
代表理事 山口 祐次 さん

### 「想定外」を「想定」するために

震災当時は双葉郡内の事業所で事業管理(総務・人事・経理等)に従事。その後、社内外で起こる様々な「想定外」への対処に奔走。その実経験や、直面した問題の数々を知ることで、経営者や管理職のリスク管理の視野が広がります。



夢成(株)

すずき おつし  
代表取締役 鈴木 厚志 さん

### 思いやり溢れる社会の実現

震災があったからこそ見えた課題やニーズを解決すべく、食や介護分野に注力。企業の成長だけでなく、豊かな社会づくりを目指すそのマインドは、経営者から若手社員まで幅広い社会人の意識変革につながります。



(株) ミライクリエイツ

おしだ かずひで  
代表取締役社長 押田 一秀 さん

### 垣根を越えたりーダーのあり方

社会課題の解決には、組織業態の垣根を越えたりーダーの存在が重要だとして、自らが主催したボランティアや復興イベントの例を交えて解説。問題・課題解決研修やリーダー育成として有効な対話です。



(一社) とみおかwindmeyer

えんどう しゅうぶん  
代表理事 遠藤 秀文 さん

### 再生と創出 ワインでまちづくり

ワインを活用した富岡町の再生と、地域全体のにぎわいの創出を目指しています。人口減少や産業衰退の地域課題を解決する運営方針は、地域創生と企業成長のつながりを考えるモデルケースとも言えます。



(NPO) 富岡町3・11を語る会

あおき よしこ  
代表 青木 淑子 さん

### 崩壊と創世の間で

震災後に分断されたコミュニティの再生の難しさを体感しながら、震災語り部として活動。相手の立場に立った物事の捉え方の重要性を知ることは、コミュニケーションのあり方を考え直すきっかけになります。



(株) 鈴木酒造店

すずき だいすけ  
代表取締役 鈴木 大介 さん

### 酒蔵再生の軌跡

津波により酒蔵を流失し、原子力災害による避難を余儀なくされた酒蔵。2021年には道の駅なみえに醸造所を開設し、ふるさとでの酒造りを果たしました。酒造りを軸にしたコミュニティづくりに奮起する姿からは、活力を得ることができます。



## リスクマネジメント

震災・原発事故の事実、教訓等から企業の「リスクマネジメント」や「持続可能な組織等のあり方」を考える意識付けを行います。「企業にとってのリスクとはなにか」を見つめ直し、その学びを自らの業務にどのように反映するかを考えます。

1日目	JR上野駅 発 (特急ひたち)
	JR富岡駅 着
	ガイドス 研修ガイドス
	見学 (車窓)国道6号 (一部、帰還困難区域) 通過
2日目	見学 【浪江町】 フィールドワーク (請戸漁港、請戸小、大平山公園)
	考える アウトプット① 国会事故調査報告書から原発事故の原因・教訓を考える
	聞く 【原発・廃炉】東京電力社員を交えたテーマディスカッション
	宿泊 【浪江町】 宿泊ホテル 着
	聞く 【地域づくり】(一社)まちづくりなみえ 菅野事務局長
	8:30 【浪江町】 宿泊ホテル 発
	見学 (車窓)国道6号 (一部、帰還困難区域) 通過
	見学 【富岡町】 東京電力廃炉資料館
	見学 【大熊町・双葉町】 福島第一原子力発電所構内(車窓)
	食事 【富岡町】 会場
考える アウトプット② 原発事故の教訓を自社や自らの業務におけるリスクマネジメントにどう活かすかを考える	
JR富岡駅 解散	



### アウトプット

原発事故の実例を用いて、「リスクの定義」を見直す。日本のいびつな企業文化やゆがみに気づくことで、視野を広げて真の「リスクの定義」を考え、意識と行動の変革を促す。

#### → アウトプットの流れ

- ① 震災当日から原発事故の発生、そこからの東京電力の対外的・対内的な対応を関係者の証言や調査記録をもとにインプット
- ② 上記の記録から、事故当時の「リスクの定義」を想像する
- ③ 事故当時、考慮すべきだった「リスク」とはなにかを考える
- ④ 自社に置き換えて「なにをリスクとするか」「どうマネジメントするか」を考える

## 問題解決・課題解決

課題先進地とも言われる福島で活躍する経営者と対話。企業が地方創生の一躍を担っていることを体感することで、包括的なビジネスマインドを養うとともに、福島の学びを自社の問題・課題解決にどのように活かせるかを考えます。

1日目	JR上野駅 発 (特急ひたち)
	JR双葉駅 着
	見学 【双葉町】 東日本大震災・原子力災害伝承館
	見学 【双葉町・浪江町】 フィールドワーク (JR双葉駅、楡畑産業団地)
2日目	見学 【大熊町・双葉町】 中間貯蔵施設 (車窓)
	聞く 【住民】(株)ミライクリエイツ 押田代表との対話
	宿泊 【富岡町】 宿泊ホテル
	考える 1日の振り返り
	【富岡町】 宿泊ホテル 発
	見学 (車窓)国道6号 (一部、帰還困難区域) 通過
	見学 【富岡町】 フィールドワーク
	聞く 【事業者】(一社)とみおかワインドメニュー 速藤代表との対話
	アウトプット 問題・課題の解決のために活かせる技能やビジネスマインド
	JRいわき駅 解散



### アウトプット

参加者自身の問題を課題に変換し、福島での研修をヒントにどのように解決していくかを検討する。自社の問題・課題を解決することで起きる、社会全体の変化に気づくことで、企業の社会的役割や責任について考える。

#### → アウトプットの流れ

- ① 自社の問題を抽出
- ② 問題を解決するための課題を抽出 (問題を課題に変換する)
- ③ 研修内の対話で得た、問題解決・課題解決に活かせるポイント・ヒントを考える
- ④ 自社の問題と社会問題のつながりを発見する
- ⑤ 今後どのように問題・課題に向き合うかを考える

## リスクマネジメント

企業が担う役割 (業務、金融機能、従業員の生活保障など) を幅広い視点で整理します。実例を元にしたケーススタディでは、企業のBCPや日常的な備えを見直すきっかけとなります。

1日目	JR上野駅 発 (特急ひたち)
	JR双葉駅 着
	見学 【双葉町】 東日本大震災・原子力災害伝承館
	見学 【双葉町・浪江町】 フィールドワーク (JR双葉駅、請戸小、大平山公園)
2日目	見学 【浪江町】 道の駅なみえ
	見学 (車窓)国道6号 (一部、帰還困難区域) 通過
	聞く 【住民】(NPO)富岡町3・11を語る会 青木代表との対話
	宿泊 【檜葉町】 宿泊ホテル 着
	考える 1日の振り返り
	【檜葉町】 宿泊ホテル 発
	見学 【大熊町・双葉町】 福島第一原子力発電所構内(車窓)
	聞く 【事業者】(一社)ふくしまリアリ山口代表との対話
	アウトプット 非常時における企業運営のケーススタディ
	JRいわき駅 解散



### アウトプット

災害発生時の企業の初動緊急対応や応急対応、平常化までの事業運営を実例を交えながらシミュレーション。対外的 (クライアント、関連組織、金融機関) な対応のみならず、対内的 (従業員やその家族) な対応に必要な備えや意識を考える。

#### → アウトプットの流れ

- ① 災害発生時のシチュエーションを共有 (組織規模、人員、業態など)
- ② 複数のシーンでどのように初期緊急対応・応急対応するかを考える
- ③ 従業員の肉体的・精神的なケアの重要性を知る
- ④ 企業・組織の社会的責任を考える (地域の再生・復興のために企業がすること)

## コミュニケーション

語り部や地域づくりなど、地域のコミュニティ再生・創出に携わる人々との対話を通して、社会人に必要なコミュニケーション能力や相互理解力を養います。

1日目	JR上野駅 発 (特急ひたち)
	JR双葉駅 着
	見学 【双葉町】 東日本大震災・原子力災害伝承館
	見学 【双葉町・浪江町】 フィールドワーク (JR双葉駅、大平山公園)
2日目	聞く 【住民】(NPO)富岡町3・11を語る会 青木代表との対話
	見学 【檜葉町】 笑みふるのタウンならは (コンパクトタウン)
	聞く 【地域づくり】(一社)ならはみらい 職員との対話
	宿泊 【富岡町】 宿泊ホテル
	考える 1日の振り返り
	【富岡町】 宿泊ホテル 発
	見学 (車窓)国道6号 (一部、帰還困難区域) 通過
	見学 【大熊町・双葉町】 中間貯蔵施設 (車窓)
	聞く 【事業者】 夢成 (株) 鈴木代表との対話
	アウトプット コミュニティの再生・創出からみる社会に必要なコミュニケーション
JRいわき駅 解散	



### アウトプット

相手の立場に立ったコミュニケーションを図るための想像力を養う。(相互理解力の向上) コミュニケーションが、人間関係だけではなく、豊かな社会を実現する基本であることに気づく。

#### → アウトプットの流れ

- ① コミュニケーション不足が原因で発生する業務上の問題を抽出
- ② 福島のコミュニティの分断・再生・創出から、コミュニケーションの必要性を考える
- ③ 上記2つの共通点を発見する
- ④ 今後のコミュニケーションのあり方考える

主要都市からのアクセス

東京から

- 電車利用
  - ・東北新幹線  
東京駅～郡山駅(約1時間20分)
  - ・常磐線(特急ひたち)  
東京駅～いわき駅(約2時間30分)

札幌から

- 飛行機利用
  - ・新千歳空港～福島空港(約1時間20分)

函館から

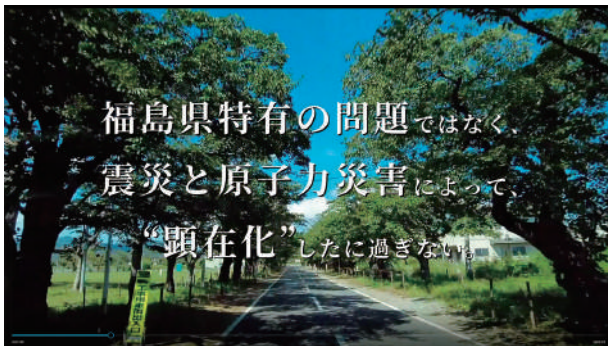
- 電車利用
  - ・北海道新幹線  
新函館北斗駅～仙台駅(約2時間40分)
  - 仙台駅～福島駅(約20分)

大阪から

- 飛行機利用
  - ・伊丹空港～福島空港(約1時間10分)
- 電車利用
  - ・東海道新幹線+東北新幹線  
新大阪駅～郡山駅(約4時間5分)

福岡から

- 飛行機利用
  - ・福岡空港～伊丹空港～福島空港(約3時間)
  - ・福岡空港～羽田空港(約1時間30分)  
羽田から電車もしくはバスを  
利用し福島県へ
  - ・福岡空港～仙台空港(約2時間15分)



福島県特有の問題ではなく、  
震災と原子力災害によって、  
“顕在化”したに過ぎない。

企業や組織の **公開中**  
人材育成研修PR動画 約7分



現地の人々や体験者のコメントを交えたPR動画です。  
実際のツアーシーンもございますので、ぜひ、ご覧ください。

研修をご検討の方はこちら

福島県観光物産交流協会では、ホープツーリズムに関するコンテンツの集約、企業様の学びのニーズへの対応、旅行会社様の商品作成・ツアー催行をサポートする現地手配機能を兼ね備えた「総合窓口」を設置しております。

ワンストップ窓口

公益財団法人  
福島県観光物産交流協会 観光部  
ホープツーリズム・教育旅行 推進部門

✉ [hoptourism@tif.ne.jp](mailto:hoptourism@tif.ne.jp)

☎ 024-525-4060 (8:30-17:30 ※土日祝日を除く)

🌐 <https://www.hoptourism.jp/>

🔍 **ホープツーリズム**



さあ、“きっかけ”をみつけに、福島へ。